

情報可視化論 最終レポート

224x025x 松田真哉

Introduction

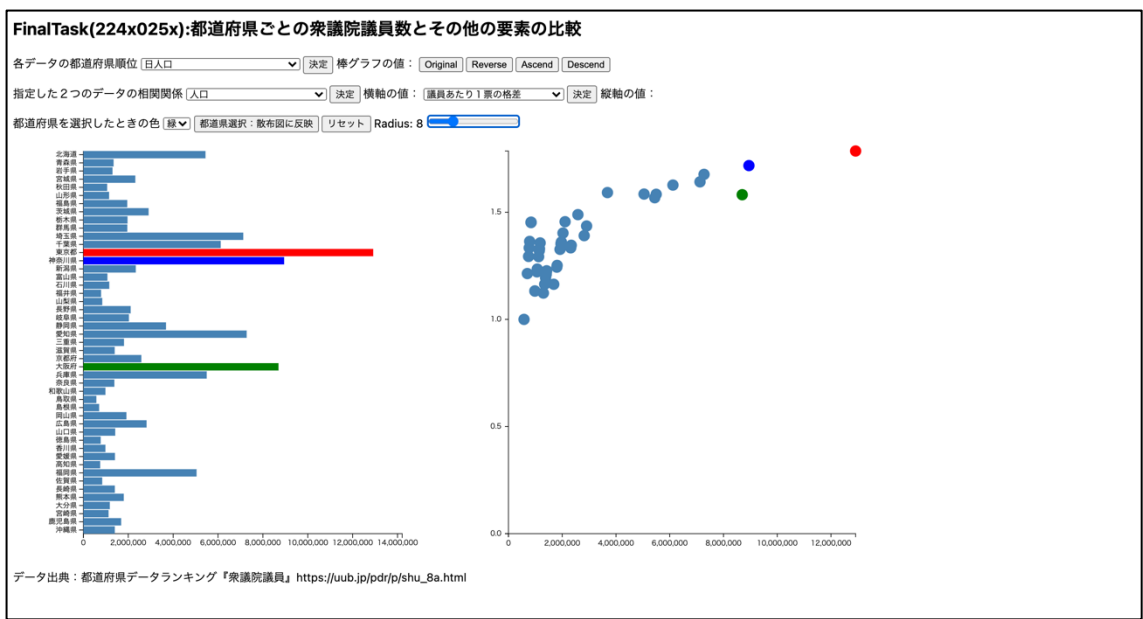
「1票の格差」という言葉を小学生の頃からよく耳にしているが、果たしてそれがどのような要因によって引き起こされているものであるか考えたことはなかった。ただ単にその地域の人口差によるものであるのか、実質的には人口ではなく有権者数ではないのか、など様々な要因から「1票の格差」に通じているものを調べるため、本課題の題材とした。

Method

可視化の方法として、さまざまなデータの大小関係は棒グラフで、任意の二つのデータの相関関係には散布図を使用する。データの大小比較しやすくするため、データを昇順と降順に並び替えを可能にした。棒グラフでは、着目する都道府県を選択すると色を変更することができ、任意のデータを変更しても分かるようにした。

比較するデータとして、都道府県別の議員定数、人口、議員あたりの1票の格差、有権者数、議員あたりの有権者数、有権者あたりの1票の格差、議員あたりの面積、面積あたりの1票の格差を利用した。

Result



Discussion

さまざまなデータを可視化することで新たな発見があり、新しい繋がりを発見することができた。Result の図では、棒グラフに議員定数、散布図の縦軸に都道府県別の人口、横軸に議員あたりの1票の格差を示している。やはり、人口が多い都道府県は1票の格差も大きいという相関関係があることが確認できる。気になった点は、人口と議員定数の関係である。ほとんどの都道府県で人口に比例して議員定数も大きくなっていることに対して、北海道のみこの相関関係から外れていたのである。他にも、普段の生活や推測からでは分からないデータを見ることができた。

Conclusion

データを可視化することにより、データを見ただけでは着目しないポイントにも気づくことができた。可視化は、社会におけるさまざまな場面で課題解決のための気づきや提案に導いてくれるものであると可能性を感じた。

Reference

都道府県市区町村 <https://uub.jp/>